



# 1月給食だより

2025年1月号  
調布市立飛田給小学校  
校長 松田 隆  
栄養士 小島 里奈

新年あけましておめでとうございます。

今年度も、残すところあと3か月となりました。

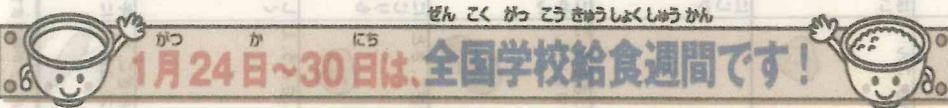
引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるよう、

魅力ある給食作りに努めていきたいと思います。

本年もよろしくお願ひ致します。

魅力ある給食作りに努めていきたいと思います。

本年もよろしくお願ひ致します。



日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町（現：鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まつたものの、戦争による食料不足で中断されました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA（アジア救済公認団体）」から、給食用物資の寄贈を受け、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日~30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思います。



はんしん あわじ だいしんさい ねん  
阪神・淡路大震災から30年

はんしん あわじ だいしんさい ねん  
さいがいじ しょくそな

阪神・淡路大震災から30年

## 災害時の『食』を備えましょう！おむすびの日

1995（平成7）年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料的重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と定めました。阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間に各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりしておくことが大切です。

\*2018（平成30）年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

### 災害時の食の備え

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

#### そのまま食べられる

##### 非常食



アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

#### ローリングストックで備える

##### 日常食品



お米、乾麺、乾物、白持ちのする野菜・果物、調味料など

#### 外出時の

##### 持ち歩き用品



飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくと安心です。

#### 災害発生直後の食事

避難所などへ避難することも考え、1日の飲料水と非常食を、非常用持出しが袋等に入れておきましょう。家にとどまる場合は、冷蔵庫・冷凍庫の中にある腐りやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせずに済みます。

この家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。



赤ちゃん用ミルク、アレルギー対応食品、介護用食品など